

「鬘斗のボン〜」

「根本や」

「ボン〜」

「難儀やな、根本」

「ボン〜か」

「困るな、鬘斗の元を知つてるか」と云ふねん、知らんと云ふたら尻をクル〜と捲つて座敷へ飛上つたれ、そこで鬘斗の根本は志州鳥羽浦志摩浦で海女が漁業する、海女と云ふたら繪に書いたある様に綺麗なものやと思ふて居るやろ、あれは繪空事で眞實の海女と云ふものは潮風に吹かれてお色が眞黒け、歌にまで唱ふてある位で色の黒い穢いものや、解つてるか、女と云ふ者は月に七日身が汚れる、月經と云ふものがある」

「月經て何んや」

「嬬を持つて居て月經を知らんのか」

「まだ喰ふた事なら」

「喰ふものやない、月に七日づゝ身が汚れる、身の汚れた者は海へ這入れん、そこで採つて來た生貝を手桶に入れて陸で番を仕て居る、これを手桶番と云ふ、手桶番の因縁を説いて聞かしたれ、それ

は後家で不可す獨身で不可ん、仲のよい夫婦が蒸し上げた貝を蕙の上に並べて夫婦が一晩その蕙の上で寝ん事には目出度う鬘斗にはならんわい、五十錢なら安い一兩包めと云ふたれ、鬘斗の因縁を云ふたつたら感心仕て包みよる」

「もし先方が包みよらなんだらお前が辨賞ふか」

「そんな事が出来るかい、まだ先方が尋ねよるに違ひない、鬘斗は幾手もある、蕨鬘斗はと尋ねたら柿でも桃でも皮の剥きかけを見い皆蕨の形になつてるやろ、蕨鬘斗は生貝の剥きかけやと云へ襷鬘斗はと云ひよつたら、生貝の紐と云ふたれ、杖突鬘斗はと云ひよつたら、生貝を引つくり返して見なはれ裏は杖突鬘斗の形になつてあるわいと、そう云ふたら先方は感心して一兩包みよる、解つたか」

「よしッ」

「しつかりやらんと不可んで、ボン〜云ふて行けよ」

「よつしや解つてる、ようも己れ教へさらしたな」

「怒つてるな、此處で云ふのやあらへん先方へ行つて云ふのや」

「ナア、俺は阿呆でも賢い友達がチャンと教へてくれるわい……元氣をつけて這入つたら……御免なはれや」